

ぶらたなす

NO. 11

如月

(きさらぎ)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2022. 2. 28

後期期末試験終了



後期期末試験も終了し、ホッと一息ついている人も多いと思います。最近ではコロナ感染者の増加や、高校入試の際、生徒の学校への立ち入り禁止の日もあり、家にいる時間が更に増えると思います。そのような時間が読書のチャンスです。10分程度の読書でもストレスを減らすことができます。また、大学受験に必要な小論文を書く力が身につきます。学校の授業の範囲だけでなく色々な分野の知識が必要になります。読書をすれば自分の目的以外の知識も得られるのでおすすめです。自分の将来のためにも、眺めるだけでも図書館に来てみてはいかがでしょうか。(2-1 佐藤 魁)

図書委員のおすすめの本



『鹿の王』上橋 菜穂子：著
角川書店

一命をつなげ。愛しい人を守れ。故郷を守るため、死兵となった戦士国＜独角＞。その頭であったヴァンは、岩塩鉱に奴隷として囚われていた。ある夜犬たちが岩塩鉱を襲い、謎の疫病が発生する。その隙に逃げ出したヴァンは幼子を拾い「ユナ」と名付け育てるが……。生き残った父と子が、未曾有の危機に立ち向かう。疫病が発生し治療薬を打ちたい者もいれば、拒む者もいる。根拠のない噂が広まるなど、今の世の中と重なる所がいくつもあり、考えさせられる本だと思った。風景描写もわかりやすく書かれており、物語の背景が美しく伝わってくる。今年映画化された大作『鹿の王』ぜひ、読んでみてください。

(2-1 橋本 菜那美)

新刊図書からぜひ読んで欲しい本

『アウシュビッツ生還者からあなたへ』
14歳、私は生きる道を選んだ

リリアナ・セグレ：著

中村秀明：訳

岩波書店

ユダヤ系イタリア人として迫害を受け、13歳でアウシュビッツ強制収容所に送られた経験を持つ著者。

イタリア人社会から排除され、憎悪の対象となり、生きることも否定された少女時代。長い間、その少女時代の記憶にふれることも涙することもできずにいた。本書はその壮絶な体験を戦争の終わりまで語っている。

日本の若者の死因の第一は自殺。死を選ぶことが簡単なことでも、著者は「生きる」ことを選んだ。その力強い生命力を本書から読み取ってほしい。そしてみなさん自身も力強く「生きる」という命のバトンを受け取ってほしい。

『本物の英語力』鳥飼玖美子：著
講談社

英語を楽しみながら学ぶコツ
基本原則

- ① ネイティブスピーカーを目指すのではなく、自分が主体的に使える英語を目指す。「私の英語」。
- ② 英語を覚えようとするのではなく、知りたい内容、興味のある内容を英語で学ぶ。

この二つを忘れずに本書を読むといつの間にかあなたは「英語格差」をなくすことに貢献することに。

本書を読んで英語を得意科目にしよう！